

CentreNET[®]
AT-TCP/32 Professional Ver.2.1

Installation Guide

ご注意

- 本書の中に含まれる情報は、当社（アライドテレシス株式会社）が保有しています。当社の同意なく本書の全体もしくは一部をコピーまたは転載しないでください。
- 当社は、予告なく本書の全体もしくは一部を修正または改訂することがあります。あらかじめご了承ください。
- 当社は、改良のため予告なく製品の仕様を変更することがあります。あらかじめご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

著作権表示

- Copyright © 1996, 1997, 2000 アライドテレシス株式会社
- Copyright © 1996 Orangesoft, Inc.

商標について

- CentreNET、CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国その他の国における登録商標です。
- UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドがライセンスする米国ならびに他の国における登録商標です。
- PC-9800 は、日本電気株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名等は、各社の商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

- 2000 年 9 月 初版

目次

ご注意	ii
著作権表示	ii
商標について	ii
マニュアルバージョン	ii
第 1 章 概要	1
1.1 収録アプリケーション	1
1.2 動作環境	3
第 2 章 インストール	5
2.1 インストールの前に	5
2.2 インストール手順	6
第 3 章 アンインストール	13
3.1 Windows 95/98/NT 4.0/2000 をお使いの場合	13
3.2 Windows NT 3.51 をお使いの場合	13
第 4 章 「PGP 国際版 2.6.3i」について	15
4.1 PGP のバージョン	15
4.2 注意事項	15
4.3 ダウンロード	16
4.4 インストール	16
4.5 PGP とは	16
付録 A TCP/IP の基本設定	19
A.1 はじめに	19

A.2	Windows 95/98 の場合	20
A.3	Windows 2000 の場合	23
A.4	Windows NT 4.0 の場合	27
A.5	Windows NT 3.51 の場合	30
A.6	hosts ファイル	34

第 1 章

概要

このたびは、CentreNET AT-TCP/32 Professional (以下、AT-TCP/32) をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。AT-TCP/32 は、Windows95/98/NT 3.51/NT 4.0/2000 対応の 32 ビット TCP/IP アプリケーションパッケージです。AT-TCP/32 を使用することにより、UNIX システムと Windows システムが混在するネットワークを容易に構築することができます。

本 Installation Guide では、AT-TCP/32 のインストール方法や TCP/IP の基本設定などについて説明しています。インストールの前に必ずご一読ください。また、CD-ROM 内の Readme ファイルもあわせてご一読くださいますようお願い申し上げます。

1.1 収録アプリケーション

AT-TCP/32 には、次の TCP/IP アプリケーションが含まれています。

電子メール (ATMail)

SMTP/POP3 対応の電子メールクライアント (メーラー)。公開鍵方式の暗号プログラム PGP 2.6.3i への GUI フロントエンドを持ち、暗号化メールの送受信が可能です。

※ 本パッケージには、PGP プログラムは含まれておりません。詳細は15ページの「4 「PGP 国際版 2.6.3i」について」をご覧ください。

ネットニュースリーダー

NNTP 対応のネットワークニュースリーダー。ニュースグループやスレッドのツリー表示をはじめ、未読記事の管理や検索、メーラーや Web ブラウザとの連携など多様な機能を持ちます。

Ping コーティリティ

GUI ベースの ping/traceroute コーティリティ。簡単な操作で TCP/IP ネットワークの診断が行えます。

VT 端末エミュレータ

telnet/rlogin に対応した VT282 相当の端末エミュレータ。各種漢字コードへの対応、オートログイン、キーマップの変更、XMODEM/BPLUS によるファイル転送などの機能を備えています。

FTP クライアント

GUI ベースの FTP クライアント。ドラッグアンドドロップによるディレクトリの一括コピーをはじめ、Proxy サーバへの対応やマクロプロセッサによる FTP コマンドの一括実行などの機能を持ちます。

FTP サーバ

Windows 用の FTP サーバ。ホスト単位およびユーザ単位でのアクセス制御が可能です。

リモートコマンド

Windows 用の rcp/rsh フロントエンド。リモートホスト上で任意のコマンドを実行させる遠隔コマンド実行機能 (rsh) と、ローカル/リモートを意識せずにファイルのコピー (転送) を行える rcp コマンドを GUI で操作できます。

TFTP クライアント

Windows 用の TFTP クライアント。

TFTP サーバ

Windows 用の TFTP サーバ。インテリジェントなネットワーク機器との間でソフトウェア等を転送する場合に便利です。

リモートプリント

Windows 用の lpr クライアント。lpd サーバ経由でネットワークプリンタに出力できます。

プリンタサーバ

Windows 用の lpd サーバ。lpr クライアントの要求を受けてプリントジョブを管理します。

Finger クライアント

リモートホストのユーザ情報やログイン情報を取得することができます。

Finger サーバ

Windows 用の Finger サーバ。

Whois クライアント

ネットワーク上の各種組織や団体のデータベースを検索することができます。

時刻設定ユーティリティ

ネットワーク上のタイムサーバと PC の時計を同期させるためのユーティリティです。

ダイヤルアップコネクター

ダイヤルアップ IP 接続を容易に行うためのフロントエンドソフトウェア。複数プロバイダの登録や自動接続、巡回接続など便利な機能を搭載しています。

1.2 動作環境

AT-TCP/32 の動作環境を以下に示します。

1.2.1 対応コンピュータ機種

AT-TCP/32 は、以下のコンピュータ機種に対応しています。

- OADG 準拠 AT 互換機 (DOS/V)
- NEC PC-98 シリーズまたは 98 互換機
- NEC PC98-NX シリーズ

1.2.2 対応オペレーティングシステム

AT-TCP/32 は、以下の日本語版オペレーティングシステム (OS) に対応しています。

- Microsoft Windows 95
- Microsoft Windows 98
- Microsoft Windows NT 3.51/4.0
- Microsoft Windows 2000

※ 英語版 OS には対応しておりません。また、Windows NT は、Intel x86 版のみの対応となります。

1.2.3 コンピュータ資源

AT-TCP/32 は、以下のコンピュータ資源を必要とします。

- CPU : i486SX 以上 (使用する OS の要件に依存します)
- メモリ : Windows 95/98 では 16MB 以上、Windows NT/2000 では 64MB 以上を推奨
- ディスク容量 : 標準構成で 18MB 以上
- CD-ROM ドライブ

第2章

インストール

AT-TCP/32 のインストール手順について説明します。

ここでは、インストール対象のコンピュータとして、Windows 95 を搭載した AT 互換機を想定しています。また、起動ドライブを「C:」、CD-ROM ドライブを「D:」と仮定しています。

ドライブ名などを各自の環境に応じて読みかえてください。

2.1 インストールの前に

AT-TCP/32 のインストールを始める前に、以下の各項目について確認してください。

必要動作環境の再確認

AT-TCP/32 をインストールしようとしているコンピュータが、必要動作環境の要件を満たしているかどうか、3 ページの「1.2 動作環境」でもう一度お確かめください。

ネットワークアダプター

AT-TCP/32 をインストールしようとしているコンピュータに、ネットワークアダプター（LAN アダプター）およびそのドライバーが正しくインストールされていることをご確認ください。

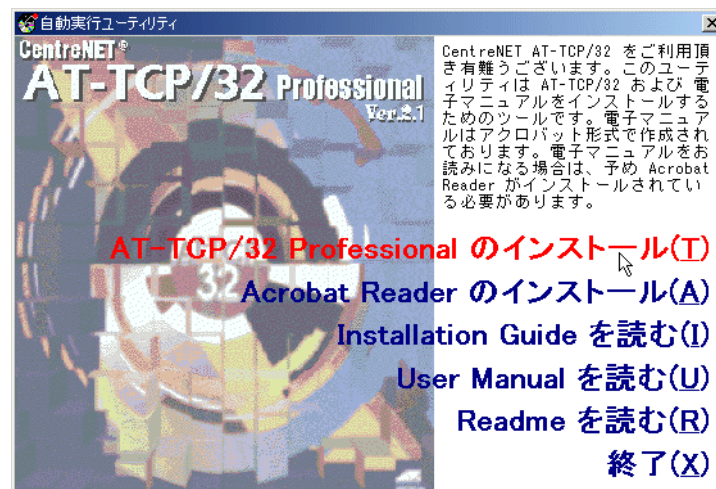
なお、LAN を使用せず、ダイヤルアップ IP 接続環境でのみ AT-TCP/32 をご使用になる場合は、LAN アダプターは必要ありません。その場合は、モデムや TA とそのドライバ、および、「ダイヤルアップアダプタ」がインストールされていることをご確認ください。

TCP/IP プロトコルスタック

AT-TCP/32 を使用するには、TCP/IP プロトコルスタックが必要です。TCP/IP プロトコルがインストールされていないと、インストール中に警告メッセージが表示されます（インストール自体は行うことができます）ので、19 ページの「付録A TCP/IP の設定」などを参考にして、あらかじめインストールの確認と必要な設定をすませておいてください。

2.2 インストール手順

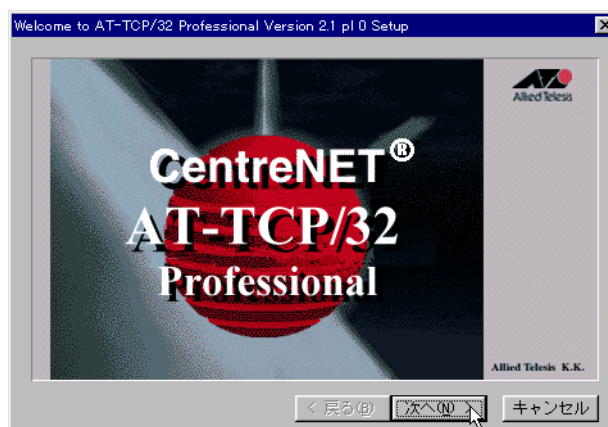
1. コンピュータの電源を入れ、Windows を起動します。
 \ Windows NT または Windows 2000 をご使用の場合は、「Administrator」権限でログオンしてください。
2. CD-ROM ドライブに CentreNET AT-TCP/32 Professional の CD-ROM をセットします。
3. 「自動実行ユーティリティ」が起動します。「AT-TCP/32 Professional のインストール」をクリックしてください。



自動実行ユーティリティ

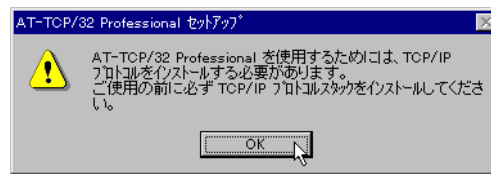
\ Windows NT 3.51 をご使用の場合や、CD-ROM ドライブの設定で自動実行をオフにしている場合は、「プログラムマネージャ」または「スタート」メニューの「ファイル名を指定して実行」で、「D:¥SETUP.EXE」を実行してください（CD ドライブが「D:」の場合）

4. 「次へ」をクリックします。



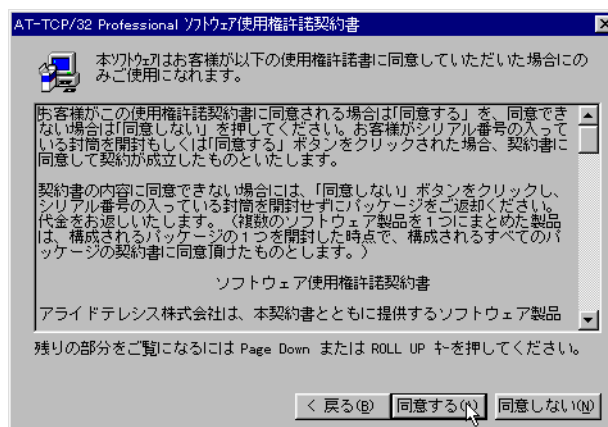
セットアップ開始

※ TCP/IP がインストールされていないと、ここで次のような警告メッセージが表示されます。必ず TCP/IP をインストールしてから AT-TCP/32 をインストールしてください。



TCP/IP 未インストール

5. 使用権許諾契約書をよくお読みになり、同意されるなら「同意する」をクリックしてください。同意できない場合は「同意しない」をクリックします。その場合、セットアップは中止となります。



使用権許諾契約書

6. AT-TCP/32 Professional のシリアル番号と認証キーを入力して、「次へ」をクリックしてください。これらの番号は、パッケージに封入されている「シリアル番号/認証キーシール」に記載されています。

なお、「AT-TCP/32 Professional Ver.2.1 乗換えキット」をご購入のお客様は、お手持ちの AT-TCP/32 または AT-TCP/32 Light のシリアル番号と認証キーがそのままご使用になれますので、そちらを入力してください。



シリアル番号/認証キーの入力

7. セットアップタイプを選択します。通常は「フルインストール」を選択してください。

フルインストール

AT-TCP/32 の全コマンドをインストールします。通常はこれを選択してください。

コンパクトインストール

使用頻度の高い電子メール、Ftp クライアント、VT 端末エミュレータ、Ping ユーティリティ、リモートプリント、プリンタサーバのみをインストールします。

カスタムインストール

インストールするコマンドを任意に選択できます。



セットアップタイプの選択

8. 本製品のマニュアルは PDF 形式で提供されています。マニュアルをインストールする場合は「インストールする」を選択して、「次へ」をクリックしてください。マニュアルが不要な場合は「インストールしない」を選択して「次へ」をクリックします。



マニュアルのインストール

9. セットアップタイプとして「フルインストール」あるいは「コンパクトインストール」を選択した場合は、次の画面が表示されます。AT-TCP/32 のインストール先ディレクトリを指定し、「次へ」をクリックしてください。10ページの手順 11 に進みます。



インストール先の選択

10. セットアップタイプとして「カスタムインストール」を選択した場合は、ここで次の画面が表示されますので、インストールするコマンドを選択してください。また、「参照」ボタンを押して、インストール先のディレクトリを指定することもできます。



カスタムセットアップ

11. デスクトップへの組み込み方法を指定します。デフォルトでは「サブメニューを作成する」のみ選択されています。指定したら「次へ」ボタンをクリックしてください。

※ このダイアログは、Windows NT 3.51 では表示されません。



デスクトップへの組み込み

12. プログラムフォルダを選択し、「次へ」をクリックします。Windows NT 3.51 の場合は、「プログラムフォルダ」を「プログラムグループ」に読み替えてください。



プログラムフォルダの選択

13. 内容を確認し、「次へ」をクリックしてください。



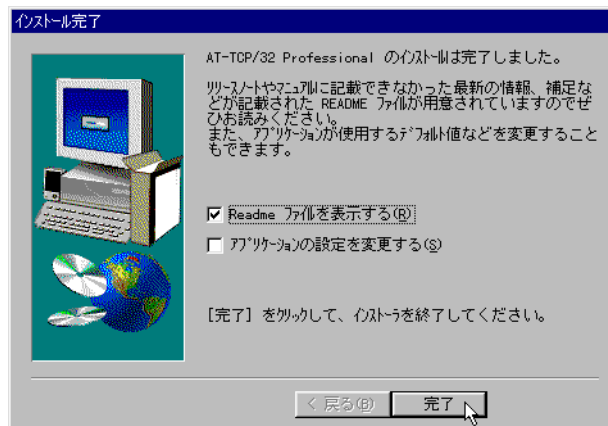
インストール前の確認

14. ファイルのコピーが始まります。



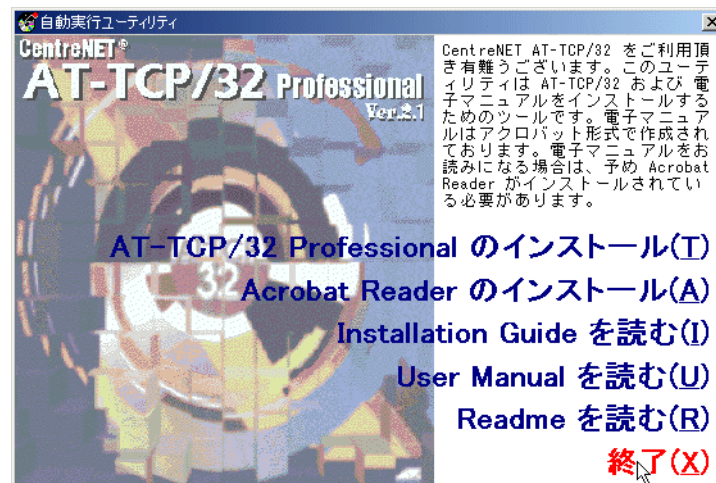
ファイルのコピー中

15. コピーが終了すると「インストール完了」ダイアログが表示されます。このダイアログから、README ファイルを読んだり、アプリケーションの設定を変更したりすることもできます。「完了」をクリックすると、インストール完了です。



インストール完了

16. 「自動実行ユーティリティ」ダイアログに戻りますので、「終了」をクリックして終了させます。



自動実行ユーティリティの終了

17. 以上でインストールは完了です。なお、電子メール (ATMail) で「PGP 暗号化機能」を利用したい場合は、別途 PGP プログラムを入手してインストールする必要があります。詳細は15ページの「4 「PGP 国際版 2.6.3i」について」をご覧ください。

第3章

アンインストール

AT-TCP/32 をインストール先のハードディスクから削除する場合は、以下の手順にしたがってください。

3.1 Windows 95/98/NT 4.0/2000 をお使いの場合

1. Windows 95/98/NT 4.0/2000 を起動します。
 - ◇ Windows NT 4.0 または Windows 2000 をご使用の場合は、インストール時と同じユーザー（Administrator 権限）でログオンしてください。
2. すべてのアプリケーションを終了させます。
3. 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」をクリックします。
4. 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
5. 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログが表示されるので、「CentreNET AT-TCP/32 Professional Version 2.1 pl 0」を選択し、「追加と削除」ボタンをクリックします。
6. AT-TCP/32 関係のファイルおよび設定がお使いのシステムから削除されます。

3.2 Windows NT 3.51 をお使いの場合

1. Windows NT 3.51 を起動します。
 - ◇ インストール時と同じユーザー（Administrator 権限）でログオンしてください。
2. プログラムマネージャ以外のすべてのアプリケーションを終了させます。
3. プログラムマネージャの「CentreNET AT-TCP32 Professional」グループの中の「アンインストール」アイコンをダブルクリックします。
4. AT-TCP/32 関係のファイルおよび設定が Windows NT 3.51 上から削除されます。システムを再起動することによりアンインストール処理は終了します。

第 4 章

「PGP 国際版 2.6.3i」について

AT-TCP/32 の「電子メール」(ATMail)では、メッセージを暗号化して送信したり、暗号化されたメッセージを復号化して読んだりするための機能があります。そのためには、「PGP 国際版 2.6.3i」というソフトウェアが別途必要になります。本パッケージには PGP プログラムは含まれておりませんので、PGP のホームページからダウンロードし、各自インストールしてください。

4.1 PGP のバージョン

1997 年 1 月現在、次に示すバージョンのアーカイブが ATMail との組み合わせで動作することが確認されています。

pgp263i.zip	299KB	AT 互換機用。PC-98 シリーズでは動作しません
pgp263ix.zip	379KB	AT 互換機用。PC-98 シリーズでは動作しません
pgp263i-win32.zip	322KB	Win32 用。PC-98 シリーズでも動作します

ATMail で使用する場合は、pgp263i-win32.zip をおすすめします。

4.2 注意事項

PGP の使用にあたっては、以下の点にご注意ください。

- 「PGP 国際版 2.6.3i」のダウンロード、使用、その他の一切については、個人もしくは各会社、各団体の判断と責任において行ってください。
- 「PGP 国際版 2.6.3i」の商品利用、輸出/輸入、国外への持ち出し/国外からの持ち込み、その他に関して制限事項等がもうけられておりますので、十分ご調査ご確認の上、自己の判断と責任においてご利用ください(PGP 国際版のホームページ (<http://www.pgpi.org/>) または PGP 国際版のホームページ (日本語版) (<http://www05.u-page.so-net.ne.jp/ba2/naoki-s/pgpi/>) などをご

参照ください)。

- 弊社はこれら「PGP 国際版 2.6.3i」の取り扱いのすべてについて一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

4.3 ダウンロード

弊社ホームページに「PGP 国際版 2.6.3i」の入手に関する情報を掲載しておりますので、下記の URL をご利用ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/support/faq/pgp.htm>

なお、ダウンロードの詳細については、PGP 国際版のホームページをご覧ください。

4.4 インストール

ダウンロードした「PGP 国際版 2.6.3i」は、Zip (PKZip) 形式で圧縮されています。これを展開するには、WinZip などのファイル圧縮解凍ユーティリティが必要です。

PGP のインストール自体は、ハードディスク上の適切なディレクトリにアーカイブを展開するだけで完了します (弊社では、「PGP 国際版 2.6.3i」のインストールに関するご質問は受けかねます。お客様の責任にて行っていただけますようお願い申し上げます)。

4.5 PGP とは

PGP (Pretty Good Privacy) は、Philip Zimmerman 氏によって開発された公開鍵方式の暗号化プログラムです。PGP を使用することによって、電子メールやコンピュータ上に格納されたファイルを暗号化し、それらのプライバシーを保護することができます。

4.5.1 暗号化と復号化

誰かが情報を抜き取って読もうとしても解読できないように、元の情報 (平文といいます) を見た目には無秩序な形に置き換えることを「暗号化」といい、置き換えられた文章を「暗号文」といいます。

暗号文の内容 (本来の情報) を読むには、「鍵」を使って平文に戻す必要があります。平文に戻すことを「復号化」といいます。

暗号化の目的としては、次のようなものがあげられます。

機密保持

ビジネスの世界をはじめとして、情報の機密性が求められる場面は数多くあります。情報を暗号化しておけば、たとえ不正アクセスを受けたとしても、情報を解読される恐れが少なくなります。

情報の正確性や保全性の維持

内容の正確さが重要視される情報が改ざんされるのを防ぎます。

信憑性

電子署名や認証は、送信されてきた情報が本物であることを確認するための手段です。

4.5.2 公開鍵方式

PGP は、公開鍵方式といって、公開鍵と秘密鍵の 2 種類の鍵を使用する方法を採用しています。暗号化と復号化のためには、この 2 種類の鍵が必要になります。

これらの鍵は 2 つで一組になっており、公開鍵は所属しているグループ（たとえば、ある特定のネットワーク）内で公開され、秘密鍵は各ユーザーが他人に知られないように各自で厳重に保管します。

公開鍵

メッセージを暗号化するときに使います。誰かに情報を送るときは、相手の公開鍵を使って情報を暗号化します。これを復号化できるのは公開鍵とペアになっている秘密鍵だけなので、この情報を読めるのは秘密鍵を持っている送信相手だけとなります。

秘密鍵

メッセージを復号化するときに使います。誰かに情報を送ってもらうときは、あらかじめ渡しておいた自分の公開鍵で暗号化したものを受け取り、自分の秘密鍵で復号化して読みます。また、電子署名をするときにも使います。

パスフレーズ

PGP では、秘密鍵を保護するために「パスフレーズ」というパスワードを使用します。秘密鍵を使用するときは、つねにパスフレーズの入力が求められます。

4.5.3 公開鍵と秘密鍵の作成

ATMail で暗号化の機能を使用するには、公開鍵と秘密鍵の作成が必要になります。鍵は ATMail 上で作成することができますので、DOS プロンプト上で PGP のコマンドを使用して作成する必要はありません。公開鍵と秘密鍵の作成については、AT-TCP/32 User Manual の「電子メール」の章をご覧ください。

付録 A

TCP/IP の基本設定

AT-TCP/32 を使用するには、あらかじめ TCP/IP プロトコルの設定を行っておく必要があります。

ここでは、OS ごとに、LAN 環境における TCP/IP プロトコルの基本的な設定方法について説明します。

なお、ダイヤルアップ IP 接続環境でのみ AT-TCP/32 をご使用になる場合は、以下の設定は必要ありません。User Manual の「ダイヤルアップコネクター」の章にしたがって、ダイヤルアップ接続の設定を行ってください。

A.1 はじめに

TCP/IP の設定を行うには下記の情報が必要です。企業や学校など、組織内のネットワークに接続する場合は、システム管理者にご確認ください。家庭内 LAN の場合は、ユーザー自らが適切な値を決める必要があります。

ここでは、次の情報にもとづいてネットワークの設定を行うものとします。

DHCP サーバー

使用しない。

◇ DHCP サーバーを使用する場合は、TCP/IP の設定に必要な情報をサーバーから取得して自動設定するため、以下の情報は不要となります。

IP アドレス

192.168.100.126

サブネットマスク

255.255.255.0

以下の情報は必須ではありません。環境によって必要な場合とそうでない場合があります。詳細はシステム管理者にご確認ください。

デフォルトゲートウェイ

192.168.100.1

DNS サーバー

192.168.100.10

ホスト名

hiyo

ドメイン名

birds.or.jp

※ 上記の情報はあくまでも説明のための例です。実際に設定を行うときは、必ずお客様のネットワーク環境に合った値を確認して設定してください。詳細は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。また、TCP/IP の設定を行うには、あらかじめネットワークアダプター（LAN アダプター）のセットアップ（アダプターの取り付けとドライバーのインストール）が必要です。ネットワークアダプターのセットアップについては、ご使用のアダプターのマニュアルを参照していただくか、アダプターのメーカーにお問い合わせください。

A.2 Windows 95/98 の場合

ここでは、Windows 98 を例に説明します。Windows 95 では一部画面表示が異なるところがありますが、基本的な手順は同じです。適宜読み替えてください。

1. 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。
2. 「TCP/IP -> ご使用の LAN アダプタ名」を選択して、「プロパティ」をクリックします。



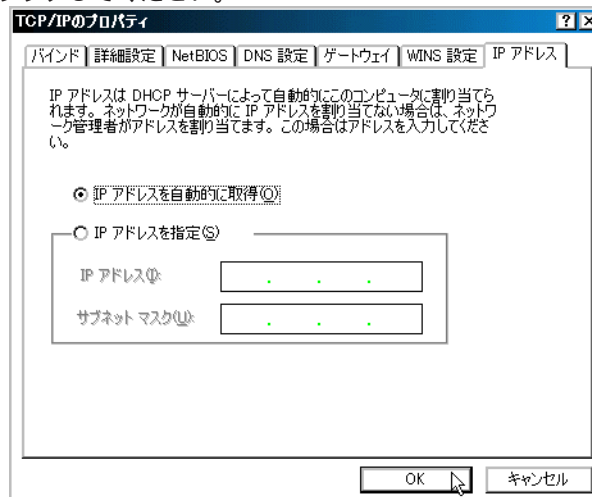
※ 「ネットワークアダプタ」が1つしか登録されていないときは、「TCP/IP -> ご使用の LAN アダプタ名」の代わりに「TCP/IP」を選択してください。

※ 「TCP/IP -> ご使用の LAN アダプタ名」または「TCP/IP」が表示されていない場合は、TCP/IP プロトコルスタックがインストールされていません。その場合は、「追加」ボタン 「プロトコル」 「追加」ボタンと進み、「製造元」から「Microsoft」を、「ネットワークプロトコル」から「TCP/IP」を選択して「OK」をクリックし、TCP/IP をインストールしてください。

3. TCP/IP パラメーターの設定を行います。

(a) IP アドレスを自動設定する場合（DHCP を使う）

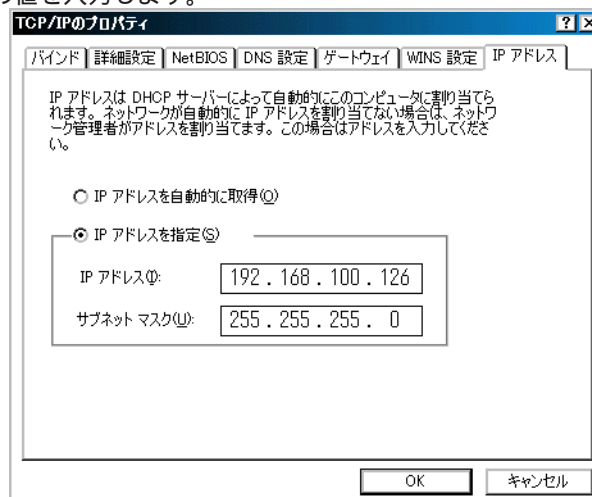
お客様の環境で DHCP サーバーが運用されている場合、「IP アドレスを自動的に取得」を選択し、「OK」をクリックしてください。



DHCP を使う場合

(b) IP アドレスを手動で設定する場合（DHCP を使わない）

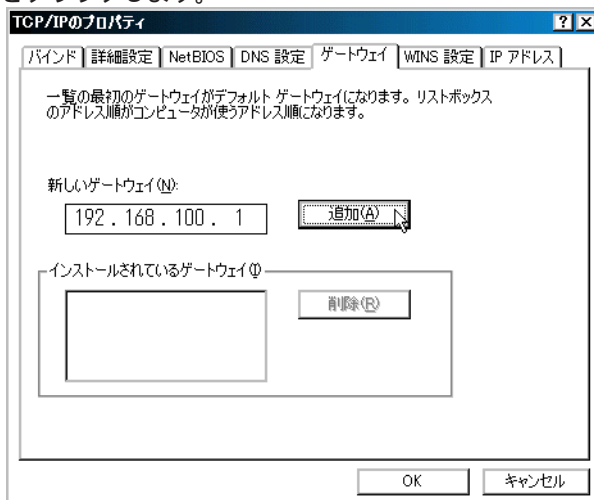
DHCP サーバーを使用しない場合は、「IP アドレスを指定」を選択し、「IP アドレス」と「サブネットマスク」の値を入力します。



IP アドレスとサブネットマスクの設定

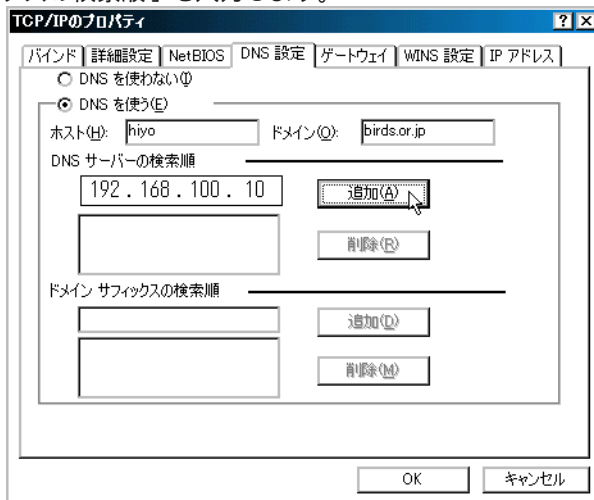
さらに、必要に応じて「ゲートウェイ」、「DNS」等の設定を行います。設定が終わったら「OK」をクリックしてください。

「ゲートウェイ」タブでは、「新しいゲートウェイ」にデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力し、「追加」をクリックします。



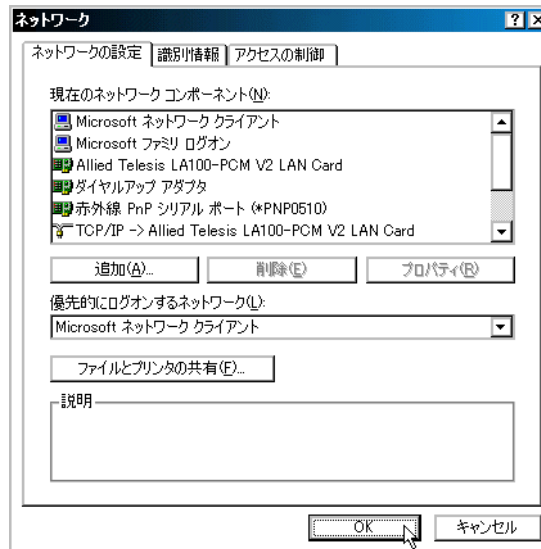
ゲートウェイの追加

「DNS 設定」タブでは、「DNS を使う」選択し、「DNS サーバーの検索順」に DNS サーバーの IP アドレスを入力し、「追加」をクリックします。必要に応じて「ホスト名」、「ドメイン」、「ドメインサフィックスの検索順」も入力します。

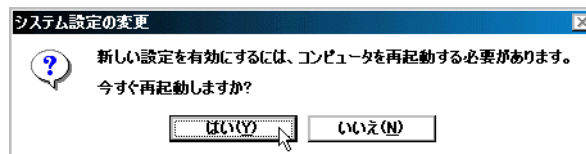


DNS サーバーの追加

4. 「OK」をクリックします。



5. 「はい」をクリックして、コンピュータを再起動します。設定内容は再起動後から有効になります。



A.3 Windows 2000 の場合

1. 「Administrator」権限でログオンしてください。



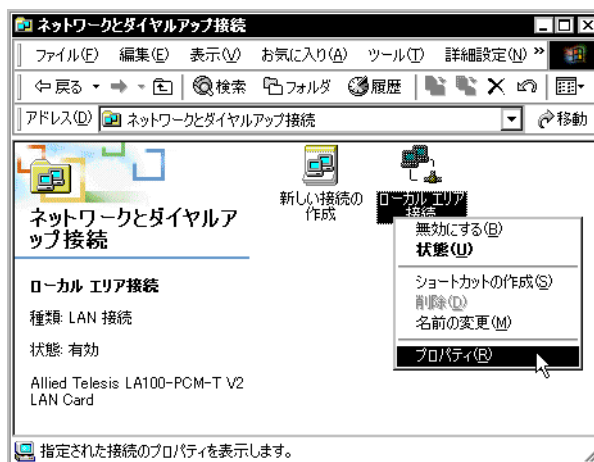
Administrator 権限でログオン

2. 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックします。

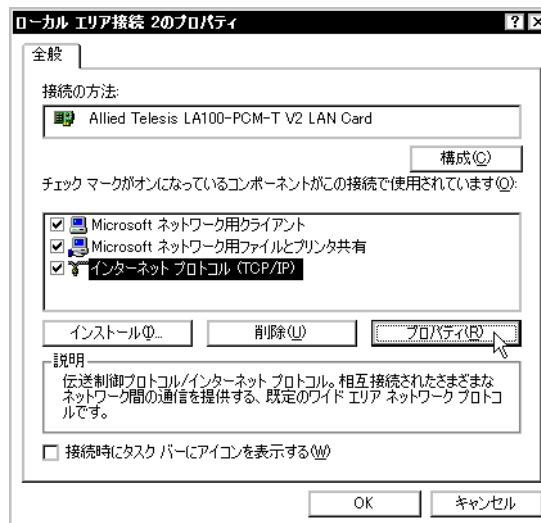


コントロールパネル

3. 使用する LAN アダプタの「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



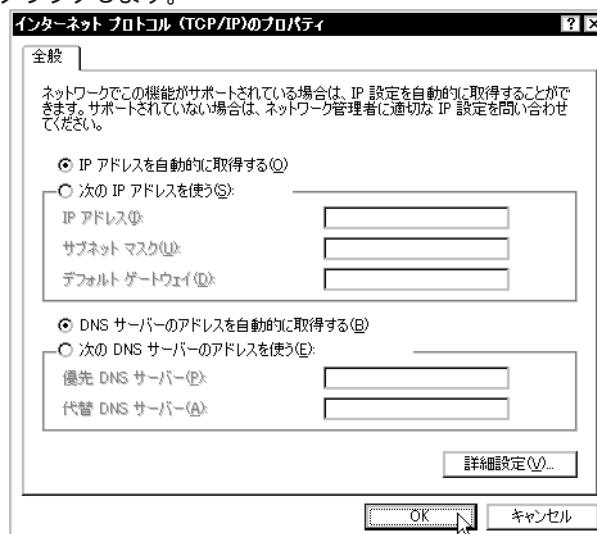
4. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」をクリックしてください。



5. TCP/IP パラメーターの設定を行います。

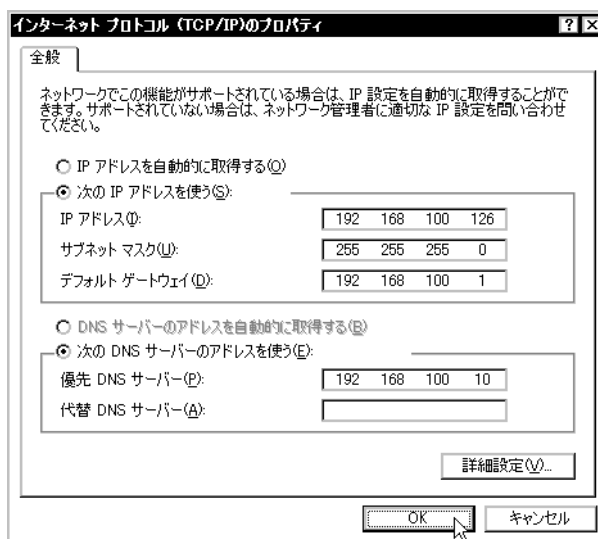
- (a) IP アドレスを自動設定する場合 (DHCP を使う)

お客様の環境で DHCP サーバーが運用されている場合、「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」がチェックされていること (デフォルト) を確認し、「OK」をクリックします。



(b) IP アドレスを手動で設定する場合 (DHCP を使わない)

DHCP サーバーを使用しない場合は、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「優先 DNS サーバー」、「代替 DNS サーバー」の値を入力して「OK」をクリックします。



DHCP を使わない場合

6. 「OK」をクリックしてください。これで TCP/IP の設定は完了です。



A.4 Windows NT 4.0 の場合

Windows NT 4.0 の場合、LAN アダプターのドライバーインストール時にネットワークの設定が行えるようになっています。ここでは、ドライバーのインストール後に TCP/IP の設定を行う、あるいは、設定を変更する場合の手順について説明します。

1. 「Administrator」権限でログオンしてください。
2. 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。



コントロールパネル

3. 「プロトコル」タブの「TCP/IP プロトコル」を選択し、「プロパティ」をクリックします。



4. TCP/IP パラメーターの設定を行います。

(a) IP アドレスを自動設定する場合 (DHCP を使う)

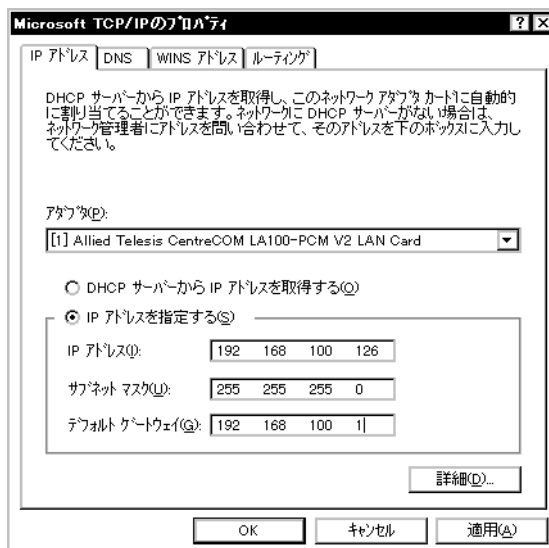
お客様の環境で DHCP サーバーが運用されている場合、「DHCP サーバーから IP アドレスを取得する」を選択し、「OK」をクリックします。



DHCP を使う場合

(b) IP アドレスを手動で設定する場合 (DHCP を使わない)

DHCP サーバーを使用しない場合は、各タブで必要な情報を入力し、「OK」をクリックします。「IP アドレス」タブでは、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の値を入力します。



IP アドレスの設定

「DNS」タブでは、「DNS サービスの検索順序」の「追加」をクリックして、DNS サーバーの IP アドレスを追加します。必要に応じて「ホスト名」、「ドメイン」、「ドメインサフィックスの検索順序」も入力します。



DNS の設定

5. 「OK」をクリックしてください。これで TCP/IP の設定は完了です。



A.5 Windows NT 3.51 の場合

Windows NT 3.51 の場合、LAN アダプターのドライバーインストール時にネットワークの設定を行えるようになっています。ここでは、ドライバーのインストール後に TCP/IP の設定を行う、あるいは、設定を変更する場合の手順について説明します。

1. 「Administrator」権限でログオンしてください。
2. 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。



コントロールパネル

3. 「組み込まれているネットワークソフトウェア」の「TCP/IP プロトコル」を選択し、「構成」をクリックします。

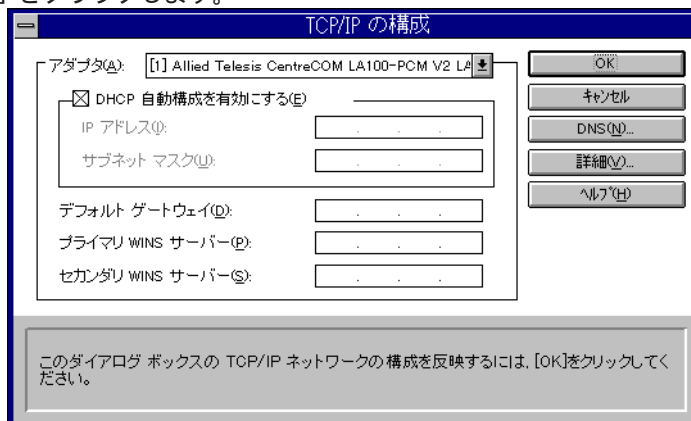


ネットワークの設定

4. TCP/IP パラメーターの設定を行います。

(a) IP アドレスを自動設定する場合 (DHCP を使う)

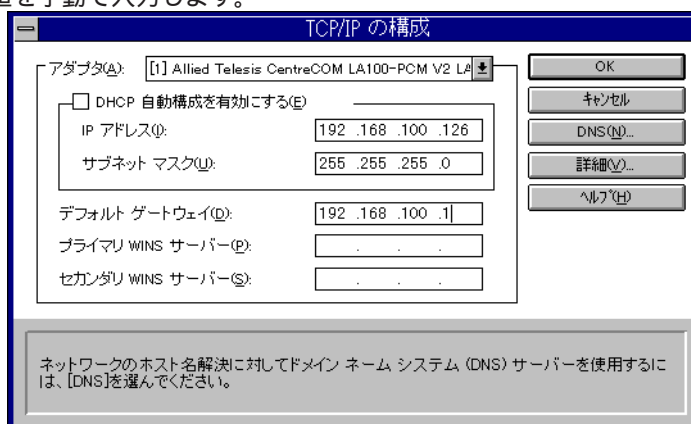
お客様の環境で DHCP サーバーが運用されている場合、「DHCP 自動構成を有効にする」を選択し、「OK」をクリックします。



DHCP を使う場合

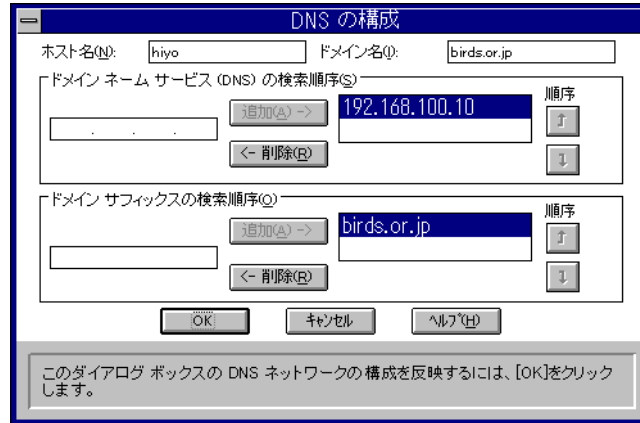
(b) IP アドレスを手動で設定する場合 (DHCP を使わない)

DHCP サーバーを使用しない場合は、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の値を手動で入力します。



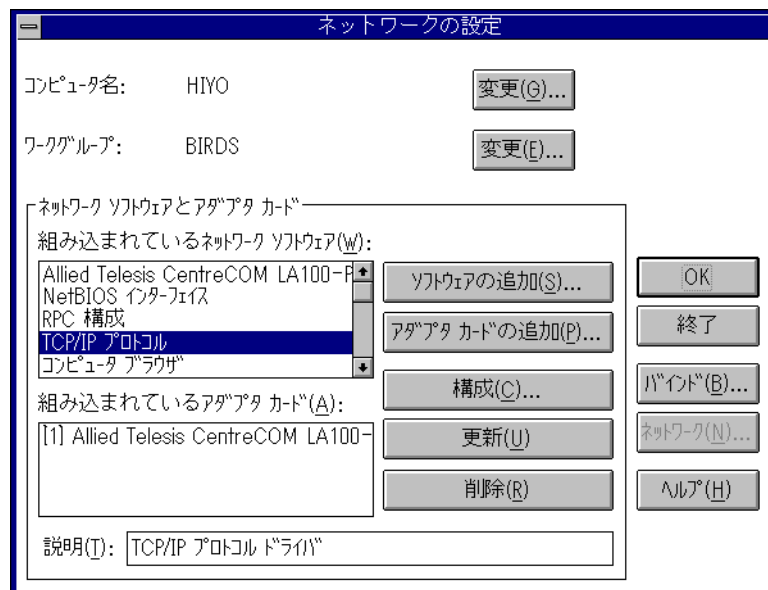
IP アドレスの設定

次に「DNS」ボタンをクリックし、DNS の設定を行います。「ドメインネームサービス (DNS) の検索順序」の左側のテキストボックスに DNS サーバーの IP アドレスを入力し、「追加」をクリックして、DNS サーバーの IP アドレスを追加します。必要に応じて「ホスト名」、「ドメイン名」、「ドメインサフィックスの検索順序」も入力します。設定が終わったら「OK」をクリックします。

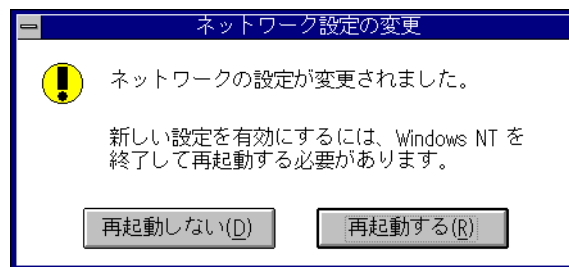


DNS の設定

5. 「終了」をクリックしてください。



6. 「再起動する」をクリックしてコンピュータを再起動します。設定内容は再起動後から有効になります。



A.6 hosts ファイル

hosts ファイルは、ネットワーク上に存在するホストの IP アドレスとホスト名の対応を記したファイルです。小規模なネットワークなどで DNS を必要としない（使用していない）場合は、所定のディレクトリに hosts ファイルを作成しておくことにより、TCP/IP アプリケーションでターゲットのホスト名指定が可能となります。また、DNS を使用している場合でも、頻繁にアクセスするホストの情報を hosts ファイルに記載しておくことで、DNS へのアクセスを減らすことができます。

hosts ファイルの書式は次のとおりです。IP アドレスとホスト名（およびホストの別名）を空白文字（スペースまたはタブ）で区切って記述します。シャープ「#」以降、行末まではコメントとなります。

```
IP アドレス  ホスト名  ホストの別名  .....  
.....
```

次に hosts ファイルの例を示します。

```
#  
# sample hosts file  
#  
192.168.1.1 sparrow.xxxx.co.jp sparrow  
192.168.1.2 starling.xxxx.co.jp starling  
192.168.1.3 pigeon.xxxx.co.jp pigeon  
192.168.1.4 bulbul.xxxx.co.jp bulbul  
192.168.1.5 thrush.xxxx.co.jp thrush  
192.168.1.6 magpie.xxxx.co.jp magpie  
192.168.1.7 whiteeye.xxxx.co.jp whiteeye  
...  
...
```

hosts ファイルは、Windows 95/98 では Windows がインストールされているディレクトリ（通常 C:\windows）に、Windows NT および 2000 では、Windows がインストールされているディレクトリの下に system32\drivers\etc に置きます。